新教出版社・新刊案内　2024 年 1 月 25 日発売

〒 162-0814　東京都新宿区新小川町 9-1
Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198 / Email: eigyo@shinkyo-pb.com

キルケゴールのキリスト論

同時代のヘーゲル主義者との関係で

鹿住輝之［著］

A5 判・上製・300 頁・本体 4,500 円（税込定価 4,950 円）
ISBN 978-4-400-31097-6　C1016

著者かすみ・てるゆき氏は、1981 年生まれ。立教大学大学院キリスト教学研究科博士課程後期課程修了（博士［文学］）。現在、立教大学兼任講師。論文に、「ハンス・ラッセン・マーテンセンにおける「受肉」の教義について」、『新キェルケゴール研究』、第 19 号（2021 年）他。共訳書に、ジョン・スチュワート著『キェルケゴールは反ヘーゲル主義者だったのか？』（萌書房、2023 年）。

従来キルケゴールの体系批判はヘーゲル批判と結びつけられてきたが、実はハイベアやマーテンセンといった同時代のヘーゲル主義者に向けられていたのだ。彼らはデンマーク社会が直面した自由主義的要求に各様に応答したが、キルケゴールは両者と異なっていた。その相違の核心をキリスト論に見出し、その理路を解明した俊英の力作。

【目　次】

序　論
- 第一節　本研究の方法論と目的
- 第二節　先行研究と本研究の独自性

第一章　三者の危機意識の基盤となった歴史的背景
- 第一節　デンマークにおける国家と宗教の結びつき
- 第二節　敬虔主義と啓蒙主義
- 第三節　自由主義の台頭
- 第四節　自由主義と農民覚醒運動とナショナリズムの結合
- 第五節　一八四八年の革命と信教の自由

第二章　ハイベアのキリスト論
- 第一節　ハイベアの生い立ちと問題意識
- 第二節　ハイベアの『現代にとっての哲学の意義について』：哲学と宗教、芸術の関係
- 第三節　「ローテ博士の三位一体論と和解論への批評」におけるハイベアのキリスト論

第三章　マーテンセンのキリスト論
- 第一節　マーテンセンの生い立ちと問題意識
- 第二節　マーテンセンの受肉理解
- 第三節　マーテンセンの危機意識と教会論

第四章　キルケゴールのキリスト論
- 第一節　『イロニーの概念』におけるキルケゴールの問題意識
- 第二節　『あれかこれか』における思弁批判
- 第三節　『哲学的断片』と『後書き』でのキリスト教の思弁的解釈に対する批判
- 第四節　愛としてのキリスト論

結　論